

教育センター研修だより



南砺市教育センター

小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会③

下記の通り、南砺市小中学校の先生方を対象に、小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会を実施しました。

1 日時	平成30年8月1日（水）	15:00～16:45
2 会場	南砺市役所 井波庁舎	
3 講師	西部教育事務所 指導主事	室崎 ゆかり 先生
4 参加者	小学校教諭	37名
5 内容	小学校外国語活動、外国語科の効果的な進め方と評価	



【研修会の内容】

1 授業づくりのポイント

- ステップ1** 外国語活動の目標（三つの柱）を踏まえ、単元の目標を設定する。
→目指す単元のゴールの姿を考える。
- ステップ2** 単元のゴールの姿を見据えた、単元計画を構成する。
→ゴールとなる「コミュニケーション活動」を考える。
→ゴールに必要な気付き・慣れ親しみの活動を仕組む。
- ステップ3** 単元計画を踏まえ、その授業で目指す姿を考えた授業を構想する。
→授業で目指す姿に必要な活動を仕組む。
→スモールステップで前時との「のりしろ」を多くとる。



○ コミュニケーション活動で大切にしたい要素

- 必然性（必要感）
自分の考えや気持ち等を伝え合う力の育成
- 相手意識
（中学年）相手への配慮 （高学年）他者への配慮
（中学校）「聞き手」「読み手」「離して」「書き手」への配慮
- 思わずやってみたくなる！
ワクワク感・ドキドキ感、知ってもらいたい、聴いてみたい気持ちを引き出す。
実際の場面で活用できる技能が身に付くようにする。



2 移行期間の留意事項

- 3観点（「言語や文化に関する気付き」「外国語への慣れ親しみ」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」）に沿って評価することが大事である。
- 平成35年度に、全学年の経験値がそろふことになる。それまで、外国語の学びの経験に差がある。小中学校が連携し、小学校での学びの経験を中学校へ伝えることが大切である。

3 新学習指導要領の目標

○ 「見方・考え方」を働かせる目的

外国語で表現し、伝え合うために、外国語やその背景にある文化を、世界や社会、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、情報や自分の考え等を形成、整理、再構築することである。



4 高学年外国語科で取り組む指導 ～新教材を活用した指導方法～

○ He,Sheに初めて出合う活動

導入

「3 ヒントクイズ」で楽しみながら

- ① She can run fast.
- ② She can't touch snakes.
- ③ She can eat snakes.

Who is she?

She is Imoto.

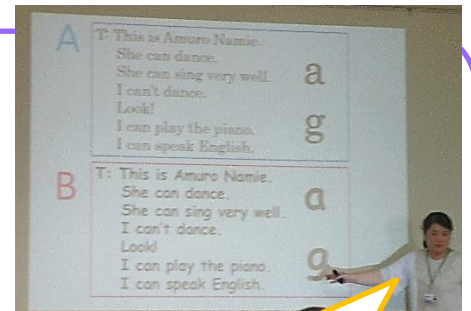
She is a comedian.

○ 子供になじみのあるフォントを

「フォント」によって、子供が受ける印象が違い、混乱する場合があります。ワークシート等の作成の際には、新教材の中で使われているフォントに近いもの（手書きに近いフォント）を使用する方が混乱を避けられる。

- abcdefg (Comic Sans MS)
- abcdefg (Century Gothic 太字)
- △ abcdefg (MS明朝)
- △ abcdefg (MSゴシック)

<フォント例>
(Word)



「Bのフォント」の方が、子供たちの混乱を避けられます。

5 評価

評価の観点に照らし、一人一人の取組のよさや進歩の状況を積極的に捉え評価し、指導に生かす。

【中間評価】・・・ねらいに沿った子供の姿を紹介し、ねらいを達成した姿を具体的に想起できるようにすることで、活動の質が高まるようにする。

【終末時の評価】・ 振り返りカードによる自己評価や相互評価、教師によるコメント等を行うことで、子供が学びを実感し、自己肯定感を高めることができるようにする。

参加者の感想より

- ・ 同じ単元でも、「3 ヒントクイズ」にしたり、ゲームのようなものにしたり、工夫の仕方次第で、学ぶ意欲や理解の仕方が変わってくるのが分かった。教え込むことよりも、自分で発見したこと、みんなで見つけたことの方が喜びは大きく、次への意欲につながることで、外国語が好きになることが分かった。
- ・ 子供たちが「できそう」「分かる」という思いを抱くことができるような新しい表現との出会わせ方、書く活動はどうあればよいか、そのヒントをもらった。
- ・ フォントの違い等、何気なく見過ごしてしまうようなところも教えていただき、細かい違いも子供にとっては大きな違いだということが分かった。
- ・ 移行期間の留意事項として、富山県版外国語活動年間指導計画例（※）を参考に進めていくことや、小学校で学習する時間によって中学校での始まる状態が違うこと、そのため、学習の経歴を中学校へ伝えることが大切だと分かった。
- ・ 「自分の考えや気持ちを言う活動を増やす」ということを心に留めておきたい。それが外国語を学ぶ目的とつながると感じた。
- ・ 評価について、中間評価や終末の評価の大切さを改めて感じた。

各校でご活用ください

※「富山県版外国語活動年間指導計画例」と、室崎先生からご紹介いただいた「振り返りカード」（福野小学校 澤川 雄太先生作成）のデータは、以下にあります。ご活用ください。

小学校共通¥10教育センター¥◎教材◎¥小学校¥10外国語